



万松寺

はくび通信

第
2068号
26



日本の“おもてなし”は 日本の“何気ない日常”

このはくび通信が配布されている頃はアジア・アジアパラ競技大会の開催前後ということもあり、名古屋には国外から多くの方々を訪れていることでしょう。2013年の東京オリンピック招致最終プレゼンで、滝川クリステルさんが披露した「おもてなし」は、その年の流行語大賞にもなりました。この「おもてなし」は、私たち日本人にとっては何気ない日常の振る舞いなのですが、海外から来られた方にとっては驚くことの一つになるようです。

■所変われば品変わる

私たちが普段疑問に思わないことをいくつかあげます。

- ・電車は時間どおりに到着し、決められた位置に停車すること
- ・混んでいる場所では、自然と列をつくり、順番を守ること
- ・落とし物は盗まず、持ち主のもとへ戻るように届けること
- ・公共の場では静かに過ごすこと
- ・ごみはごみ箱へ捨てること

このような光景は、日本では何気ない日常なのですが、国が違えば、電車が時間通りに来なかったり、落とし物は戻らないのが当たり前という所もあるようです。国が違えば価値観も変わり、驚きが生まれるのかもしれない。

■おもてなしは表なし

仏教には「自利利他（じりりた）」という教えがあります。これは、他人のために尽くすことが結果的に自分の幸せや成長につながるという教えです。決して大げさなものではなく、日常の小さな気遣いの積み重ねこそが、人と人との信頼を育み、安心して暮らせる社会となっているのです。

私たち一人ひとりが日常の中で当たり前に行っている行動は、特別な決まりや誰か一人の努力だけで成り立っているものではありません。お互いが時間を守るから予定を立てることができたり、列に並ぶから互いに気持ちよく利用できるなど、持ちつ持たれつの関係が自然と成り立っているのです。



海外から訪れる方にとっては、日本のおもてなしは豪華なサービスよりも、日常の中にあるささいな光景が安心感として映るのかもしれない。私たちが普段意識することのない何気ない日常が、日本という国への信頼につながる。日本人として誇りに思います。

一人ひとりの小さな行動が、訪れる人に安心を届け、日本の魅力を静かに伝えていく。その積み重ねこそが、日本らしいおもてなしの姿なのではないでしょうか。また、おもてなしだけでなく、日本の文化にも触れていただき、これからは幾度となく日本を訪れていただければ幸いです。

秋期
不動明王
大祭

9月28日

受付 9時半から14時

信長の窮地を救った
霊験あらたかな
「身代不動明王」が
身代わりとなり、
護ってくださいます。

◆ご希望の願いを 祈りたいします。

・厄難消除・無病息災
・病氣平癒・身体健全
・家内安全・交通安全
など

◆大般若 一万円
(入般若札 身代わり餅)

◆祈 禱 五千元
(御札 身代わり餅)

ご予約は 総合受付にて承ります
電話 WEB

住職の小囃



変わる時代、変わらない心

「いただきます」「ごちそうさま」は、食べ物の命や食事となるまでに関わったすべての人へ感謝を込める日本特有の文化です。私たち日本人は、こうした古くから続いている習慣の中で、多くのものに支えられて生きていくことを知り、相手への感謝や思いやりを大切にする心を受け継いできました。

これらは家庭や地域との関わりの中で、親から子へ、人から人へと自然に伝えられてきました。お寺も地域の人々が関わる場所の一つとして、その役割を担っていたと思います。

ただ、家族や地域の在り方も変わりつつある中で、自然と受け継がれてきた習慣が薄れてしまっているのではないかと、このところ憂慮しています。

■顔を合わせ、心をつなぐ

私が万松寺で過ごした中で、昔は今よりも、信者さんや地域の方とそこで顔を合わせて言葉を交わす機会が多くありました。例えば、自宅での読経や法要を終えた後に、お茶をいただきながらお話を伺ったり、時には世間話に花が咲いて笑いあったりするといった具合です。

私は、そうした何気ない人々との関わりから、誰かに支えられていることや相手を思いやることを自然に学んできたのだと思います。

時代が変わり、顔を合わせなくとも、多くの人と関わりをもったり、悩みなどはAIが答えてくれるような便利な時代になりました。その一方で、人との関わりが希薄になり、感謝や思いやりの大切さに気づく機会が、少しずつ減っているように感じます。しかし私は、どんな時代であっても、人と人が直接関わりあっている感謝や思いやりの心をつないでほしいと思います。

■言葉を交わし、心をつなぐ

今のお寺は、よほどの観光寺でない限り「特別な用事の時に行く場所」になってしまったように思います。ですが私は、お寺をもっと身近に感じてほしいと考えています。そこで、気軽ににお寺を訪れるきっかけになればと思い、大人の寺子屋や仏教講座など仏教を知る会や、寺力フェスの間や僧侶とお寺を巡る拝観ツアーなど立ち寄りスポット企画をはじめました。

それらをきっかけに、人々が出会い、言葉を交わすことで、相手を思うという小さな心の変化が生まれたら嬉しく思います。ですから私は、お寺が亡くなられた方のためだけの場所ではなく、今を生きている皆さまの役に立つ場所となるような取り組みを、これからも模索し続けます。



■次の世代へ、心をつなぐ

急速にデジタル化が進み、人々の暮らしやお寺の在り方も変わっています。しかし、どれだけ時代が変わっても、相手に感謝し、思いやることの大切さは変わらないと思います。だからこそ、直接顔を合わせ、言葉を交わし、心を通わせるといふアナログを大切に、古くから受け継がれてきた日本人の心を次の世代へつないでいきたいと思っています。

また、この思いや考え方が万松寺だけではなく、日本全国のお寺に広まり、お寺が敷居の高い場所ではなく、地域に寄り添い、ご縁や心を未来へつなぐ場所となるよう願っています。

万松寺住職

大藤 元裕

合掌



これからの行事

9/23(水祝)
24(木) 秋彼岸
合同法要

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなるとされる彼岸の時期に、追善供養を営みます。

9/28(月) 秋期
不動明王大祭

身代不動明王のご真前にて、災難消除、病氣平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈禱を行います。

12/6(日) スジャータ
まつり

成道会を祝うと共に、苦行で倒れたお釈迦様を救ったスジャータの功績を称えます。

■スジャータまつり宵山
5日(土) 境内

12/8(火) 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日に、偉業を称え報恩感謝の法要を営みます。

不動明王
縁日護摩 毎月28日

一部 15時~16時半
二部 19時~20時

●お代わり餅つき18時~

行事・祈禱・供養の
お問合せ・お申込みは
052-2126210735
にて承ります。(年中無休)



絆画展 2026
in 名古屋
大村順 個展

親から子への
変わらぬ愛情展

亡くなった大切な人と叶えなかった「今」を1枚の絵で描く「絆画(きずなえ)」
今回は、お子さんを亡くされたご家族の「亡くなくても無くならない想い」を、ご依頼に至った経緯や感想とともに展示しています。ご家族の絆画に触れて、皆様
の大切な人を思うひと時にしていただけたら幸いです。



絆画展 9/18(金) - 20(日)

11時 - 17時 | 万松寺 白龍館2階 白龍ホール

僧侶が教える

仏教の豆知識

【普回向（ふえこう）】

皆さまは「供養」という言葉を聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。

日常的にお仏壇の前で手を合わせる、お線香やお花、食べ物や飲み物をお供えすること、またはお墓参りに行くことなどを思い浮かべるかと思いますが。

そのほかに、亡くなってからの節目ごとに、僧侶による読経によって、故人に対して功德を施す「法要」というものも大切な供養の一つになります。

法要では、宗旨、宗派によるお経や作法の違いはありますが、式の最後には必ず「回向（えこう）」というもので締めくくることがなっています。

回向：自分自身が積んだ善行、功德を、周り（他者）に向かわせること。分け与えること。

この「回向」というものは、法要の内容、趣旨によって様々な文言を使い分けています。

■供養の対象は誰？

例えば、一周忌を供養する回向の文言は、

「○○霊位

一周忌のために回向する」

と述べ、お経をお唱えした功德と皆さまのお焼香や心を込めて手を合わせた功德を「特定の故人」に向けて分け与えます。

一方で「普回向」も「回向」の一つになりますが、回忌法要などの回向と比べて、どのような違いがあるのでしょうか。

普回向の文言を見てみましょう。

【漢文原文】

願以此功德

普及於一切

我等与衆生

皆共成仏道

【和文】

願わくは

この功德を以って

普く一切に及ぼし

我等と衆生と皆共に

仏道を成ぜんことを

このように「普回向」では、供養の対象が「特定の故人」から

「もれなく全てに及ぶ」「広くいきわたる」という意味の「普く（あまねく）一切」に向けていることが分かります。

■慈悲の心

仏教の開祖であるお釈迦様は「この世に命あるもの（衆生）は等しく尊い」と説かれました。衆生とは、私たち人間だけでなく、動物や虫、草木に至るすべての生きものを指し、それらを見た目や生き方、種別などで分けず「同じ命」という観点で捉えた言葉です。

この世界は、目に見えない微生物なども含め、多くの命にあふれており、それらが互いに関係しあ

って成り立っています。私たちは、人間とそれ以外の生きものを「同じ命」として見る

ことができるでしょうか。自分や家族、身近な人たちの喜びや幸せを願うと同様に、その思

いや功德を全ての命「一切衆生」へ向けることが「普回向」であり、慈悲の心に繋がっていくのだと思

います。

最後に、その「慈悲」を表すお釈迦様の言葉をご紹介します。

合掌

あたかも母が己が独り子を命を賭けても護るように、そのように一切の生きとし生けるものどもに對しても、無量の慈しみの心を起こすべし



慈しみの心をもって、あらゆる生きものをいたわる人、—そのような人は、多くの福德を生じる

※宗派により諸説あります。

Pick Up!
万松寺

スポーツの秋 授与品のご案内

スポーツ御守



競技チャーム

【授与期間】
7月18日～10月31日

Turn effort into victory
努力を、勝利へ



御守と一緒に、お好きなチャームをお求めいただけます（全20種目）※単体での授与WEB授与はございません。

スポーツ応援記念書

【授与期間】
9月1日～10月31日



4種類のうちからお好きなスタンプを押印いたします。※WEB授与はございません。

大人の寺子屋

講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

● 9月6日

● 10月4日

● 11月1日

時間

10時半～12時

参加費

500円（お抹茶・お菓子付き）

※行事などにより、日時・会場の変更や中止となる場合があります。

この「はくび通信」ご持参にて1回無料でご参加いただけます

万松寺の仏教講座

坐禅会

毎週日曜日

9時～10時

写経会

毎月第2土曜日

16時～17時半

写仏会

毎月第1・3土曜日

16時～17時半

仏教勉強会

毎月第4土曜日

16時～17時半

参加費

500円

お申し込み・お問合わせ

WEB

万松寺学び舎

電話

052-262-0735

検索

万松寺日記

春期
不動明王大祭

■令和8年5月28日（木）
身代不動明王のご真前にて災難消除、病氣平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈禱を行いました。



放水訓練

■令和8年7月27日（月）
災害時の火災を想定し、職員による放水訓練を行いました。武蔵川部屋の方にもご参加いただきました。



武蔵川部屋
名古屋場所宿舎

■令和8年6月29日（月）
（8月2日（日））
武蔵川部屋が万松寺を宿舎として名古屋場所に臨みました。



■令和8年7月11日（土）
名古屋場所に出場する力士の健闘を祈り、必勝祈願の祈禱を本堂で行いました。



お盆合同法要

■令和8年7月11日（土）
8月10日（月）
11日（火祝）
12日（水）
ご先祖様や大切な方が浄土から現世に帰ってくる旧盆の時期に、追善供養を営みました。



葬儀相談会

■令和8年8月10日（月）
（12日（水））
万松寺の葬儀プランについて、祭壇やパネルを展示した見学会と個別相談会を行いました。



迎え火・送り火

■令和8年8月12日（水）
15日（土）
「迎え火」では、12日にご先祖様の精霊をお迎えしました。「送り火」では、15日にお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りしました。



旧暦七夕

■令和8年8月19日（水）
願いを込めて奉納された短冊に、諸願成就の祈禱を行いました。



施食会

■令和8年8月24日（月）
ご先祖様と全ての精霊に、水の子を供え、甘露門を読経する追善供養を営みました。

大切な家族が 安らかに眠れる場所

万松寺動物霊廟



ありがとうの
気持ちを込めて



お葬式から法要まで、全てお任せ下さい。



葬儀・火葬

ご家族の気持ちに寄り添い、心を込めてお別れの時をお手伝いいたします。
葬儀・火葬 26,400円～



納骨・法要

個別納骨壇と合同墓がございます。霊廟内での法要も承っております。
納骨 13,200円～

ご見学随時承っております。
お問合せ・ご相談もお気軽にどうぞ。

フリーダイヤル イコーナ クローニ
0120-157-942

■受付時間■
9:30～18:00

所在地 〒460-0011 名古屋市中区大須 3丁目 30-40 万松寺ビル北館 9F